

2025年3月5日（水）

老球の細道856号

お見事！福島ファイヤーボンズ！アップセット（番狂わせ）！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先週末久しぶりにBリーグディレクターの仕事があった。今シーズン怪我人が続出した福島ファイヤーボンズ（以下ボンズ）は現在東地区最下位である。第24節須賀川アリーナでのゲームは西地区1位のライジングゼファー福岡（以下福岡）との対戦である。天気も3月に入ったせいか春爛漫の陽気であったが、負けが続くボンズの試合には観客の足が遠のき、2,000人に満たない入場者数であった。

3月1日（土）の第1戦はゲームの入り方は良かったものの、徐々に福岡のインサイドの強さと3Pシュートの正確さで10点差をつけられ敗退した。内容は決して悪くはなかったが、いかんせんシュートの確率が低かった。そしてまたもや怪我人が出てしまった。しかもチームの貴重なシューターである。先行き不安がつゆる。

3月2日（日）の第2戦は、さらに選手層の薄くなったボンズがあきらめないでどのような戦いをするのか。会津出身の上杉アシスタントコーチがどのように選手を激励するのか、高校時代の彼の姿を思い出しながら感慨にふけりながら須賀川に通った。

ゲームは第1戦同様スタートからボンズのアウトサイドシュートが良く決まった。ディフェンスの激しさも素晴らしかった。2Q、3Qと逆転される場面が何度かあったが、激しいディフェンスをやり続けた。このディフェンスに福岡はストレスを感じるようになり、相手チームと戦うことよりも審判と戦う場面が多く見られるようになった。コーチばかりでなく選手までも審判にアピール、クレームの場面が多くなった。いつテクニカルファールを取られてもおかしくなかったが、審判が上手にコントロールして事なきを得た。

審判と戦う福岡はチームオフェンスが機能しなくなり、外人選手のゴリゴリの1:1が目立ち始めた。第1戦はそれが機能していたが、このゲームではボンズにことごとく抑えられ、タフシュートになって落とされた。それをボンズは確実にディフェンスリバウンドをものにしてセカンドシュートを許さなかった。「ディフェンス+リバウンド」は勝利の法則である。

4Qの終盤では、福岡は3Pシュートも決まらず、ボンズにディフェンスリバウンドから速攻のイージーシュートまで許す結果になり、終わってみれば7点差もつけられ、ボンズに今シーズン2回目のアップセットを許すことになった。

家に帰って来て「ディレクター報告書」を書きながら、なぜこのようなアップセットが起きたのかを私なりに考えて見た。メンバーの欠けたボンズの勝因は、何と言ってもアグレッシブなディフェンスにあった。ファールすれすれのコンタクトの激しいディフェンスが福岡のオフェンスリズムを崩しただけでなく、メンタルにもストレスを与えた。そのために福岡は審判とまで戦う羽目になり、自ら墓穴を掘ってしまった。まさに敵は我にあり。

孫子の兵法で曰く、「敵が勝つことのできないのは、われに備えがあるからである。われが敵に勝つことのできるのは、敵に欠陥があるからである」と。